



「赤水図」のシテリカを持つ長久保赤水 顕彰会の佐川春久会長(茨城県高萩市で)

# 江戸庶民の旅 支えた「赤水図」

江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水(一七二七―一八〇二年)を存じだろか。実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬(一七四五―一八一八年)より四十二年も早く完成させた。日本地図の先駆者だが、あまり知られていない。関連資料が九月、国の重要文化財(重文)に指定されたのを追い風に、出身地の茨城県高萩市の団体が業績紹介の漫画本作りなど、知名度アップのために本格始動した。(水谷エリナ、写真も)

「長年の悲願がかなった」。高萩市で赤水のPR活動を続けている団体「長久保赤水顕彰会」の佐川春久会長(右)は、関連資料の重文指定を喜ぶ。指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史的な価値が高いとされた。とはいえ、日本地図で知られているのは伊能忠敬だ。忠敬は日本で初めて測量し、死後の一八二二年、仕事を引き継いだ弟子たちが「大日本沿海輿地全図」(通称・伊能図)を完成させた。実は、この伊能図ができる四十二年前の一七七九年、赤水は「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)を作り上げた。赤水図の特徴は情報の細かさや高い利便性にある。山や河川名など内陸の情報が豊富で、城下町や古戦場などを分かりやすく示す。精密度は伊能図と比べ遜色がなく、目立

つ遣いは当時の蝦夷地(北海道)が一部しか描かれていない程度だ。小さく折り畳んで持ち運びができ、観光ガイドブックのはしりとも言える。忠敬が測量の際に携帯したと記録があり、松下村塾で知られる吉田松陰(一八一〇―一五九年)は兄への手紙で「これがなくては不自由」と記している。赤水は農家の生まれ。農業をしながら儒学や天文学、地理学などの勉学に励み、当時水戸藩主徳川治保に学問を教える侍講を務めた。地図を作り始めたのは三十五歳ごろ。五十二歳で原図を作り約十年後、天文学の知識を生かして経線と緯線を入れ、赤水図を完成させた。江戸幕府が伊能図を国家機密として非公開としたのに対し、赤水図は庶民に広く普及。版を重ねるベストセラーとなり、ドイツ医師シーボルトらの手で海も渡ったとさ



JR常磐線高萩駅前にある長久保赤水の像

## 作者出身地 茨城・高萩 知名度アップに力

こうしたことから、顕彰会は一般の人が赤水の名に触れる機会を増やそうと取り組んできた。近年では赤水の一生を漫画にしたほか、書簡をまとめた本などを出版。今年には、赤水が地図に記した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」や、実寸大の赤水図第二版のシテリカ(縦約八十五センチ、横約百二十九センチ)も作った。佐川会長は「もっと知ってもらい、研究する人がどんどん出てきて論文を出してほしい」と語る。子どもにも知ってもらうため、会員二人が漫画の単行本を二冊ずつ作り、来年十一月に出版予定だ。一冊は赤水の一生の続編で、もう一冊は「マンガ SEKISUI'S Brain(赤水の頭脳)」と題し、赤水の地図作りに焦点を当てるといふ。ほかにも、教科書への赤水の業績記載や、大河ドラマ化、記念館の開館を目指した活動にも力を入れる。

# 東京新聞

夕刊  
中日新聞東京本社  
東京千代田区千代田二丁目1番4号  
〒100-8505 電話:03(6910)2211

# 天

銀座本店六丁目並木通り  
あす夕刊休みます  
あす3日は祝日「文化の日」ですので夕刊は休みます。ご了承ください。東京新聞

### 紙面から

マゲロ競り  
見学を再開

54950207  
00045